日本建築学会関東支部第 16 回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」
栃木市のＤＮＡ －栃木市の歴史を活かしたこれからの拠点のすがた-
ＷＳ結果のご報告

日本建築学会関東支部
JST「伝統的建造物群保存地区における総合防災事業の開発」プロジェクト

この度はＷＳにご参加いただきありがとうございました。
ＷＳの結果概要を報告しますとともに、街歩きで撮影して頂いた写真を Google にて公開しましたので、その閲覧方法についてご案内いたします。提案競技の資料として活用してください。

日　時：2014 年 7 月 27 日　15：00～17：30
場　所：とちぎ蔵の街観光館 ２階 多目的ホール
参加者：説明会参加者 32 名(事前申し込み者のみ)、WS 参加者 25 名

１．各グループ討議の結果

A 班：

■討議の流れ

対象地区全体として、「地域住民にとって暮らしやすいまちづくり」と「観光地としてのまちづくり」両者共存できるまちづくりを進めていくべきという考えをもとに以下の3つがポイントとなった。

①県庁堀にある旧小学校、旧市庁舎の今後の使われ方
・使われていないので寂しい雰囲気。
・舗装のデザインが工夫されているのに人通りが少ない。

②巴波川の通りと大通りという2つの異なる性質を持つ通りのつながり方
・巴波川の通りは川から涼しさ、心地よさを感じる。
・2つの通りの間の路地のごちゃっとした感じは良いが、少し入りづらい雰囲気。

③栃木町と嘉右衛門町エリアのつながり方
・歴史的建造物が少なく、連続性がない。嘉右衛門町へも道が折れていて、スムーズに導かれない。
・市役所のスケール感。

■上記への提案

①→高齢者や地域住民が利用できるプログラムを計画。⇒　住みやすいまちづくり。

②→巴波川の通りと大通りに観光地としての性格を持たせ、両者をつなぐ路地を地域住民が利用できる場とする。観光者ゾーンに地域住民ゾーンが挟まれる形となって観光者と地域住民が共存できる。

③→視覚的に連続性を持たせる。人が集まれるような場所。例えばお食事処などを置くことで賑わいを持たせる。⇒　観光地としてのまちづくり。観光者を嘉右衛門町まで導く効果。

B班：

■討議の流れ

対象地区の魅力・課題の共有を行い、主に景観と空き家の２つについて意見が出た。

①景観

・川の形に沿った嘉右衛門町の旧例幣使街道のカーブは、歩くことで次の景色が現れてくる魅力的な空間。

・昨年も訪れているが、嘉右衛門町の景観が変化しており、修景が着実に進んでいる。

・大通りの 4、5 軒のまとまりをもった歴史的建物の景観が美しい。そうした建物群の間に現れる駐車場を、広場や歴史的な建物に合った空間に変えることで、大通りの魅力は大きくなるのでは。

・県庁堀跡は道も舗装され歴史的な空間であることがよくわかるようになっている。しかし、県庁堀跡の内側では道が整備されていない、古い建物の保存状態が悪いなどの問題がある。

②空き家

・嘉右衛門町や大通りには、店舗自体は閉まっているが、奥に住居があり高齢者が住んでいるといった空き家予備軍があった。

・一方、空き家利活用をしているお店もいくつか見ることができた。これをもっと増やしていけるとよい。

C 班：

■課題・魅力の把握について中心となったエリア

①嘉右衛門町

魅力：

・空き家を利用した店は隠れ家的な魅力がある

・緩やかなカーブの道

問題点：

・伝建地区として既存不適格の建物が未だ多い。

・空き家が多い

・日常的に利用する商業施設が少ない

②巴波川沿いと県庁堀付近

魅力：

・水路と町の関係。河と人との近さ

・小学校の塀が低く、周辺と自然なつながり

問題点：

・交通量が多く、ゆっくり歩けない

③その他

魅力：

・まとまった見世蔵群による景観

・観光としてのみせる建物が多い

問題点：

・駅から蔵のまちまでの遠く、つながりも無い

・こどもの居場所があるのか？

■提案

・こどもの居場所としての空き家（空き店舗）の活用

・職人達との連携をはかる。栃木市のブランド力についてそれぞれの地域に特徴を持たせたまちづくり

・嘉右衛門町、市街地のコンセプトをそれぞれ考える。(駅前からの町並みのグラデーションを作る)

D 班：

■討議の流れ

巴波川沿いの魅力や、嘉右衛門町と栃木町を比較するなど下記の 3 つを中心に話が進み、提案では主に地区の分断など、対象地区全体の連続性や繋がりについての討議となった。

①巴波川を中心とした水を活かした魅力

・巴波川沿いは、蔵や橋、連続した黒塀など歴史的な景観要素が多くあり魅力。

・大通りにも元々水路があった。大通りにある蔵の街広場は水路が設けられているのに水が流れていない。

②嘉右衛門町と栃木町の比較、連続性について

・栃木町の終わりから嘉右衛門町までは現代建物ばかりで繋がりがない。

・嘉右衛門町は重伝建地区だが伝統的建物は入りづらく、大通り沿いの建物の方が生きている。

・駅から栃木町までの道も近代的で繋がりは感じられない、ただ学習塾通りになっていてそれはそれで駅周辺の特徴として良いのかもしれない。

③大通り沿いの路地

・大通りから東側の路地を覗くと寺社が現れるなど奥行きが感じられる。

・路地側にもお店が出ている箇所は、入りやすく生活者の気配も感じられる。

■提案

・駅－栃木町地区－嘉右衛門町の 3 地区の繋がり方を考える。
例えば、駅－栃木町地区では、栃木町の入り口付近は、「蔵のまち」の始まりが分かるような道路舗装の工夫を行うことや、栃木町－嘉右衛門町の境界では水の流れていない蔵の街広場など既存の使いきれていない魅力を有効に使い、両地区から人の集まる場をつくるなど。

・対象地区の南北動線（巴波川・大通り・裏通り）を繋ぐ路地を地域の顔が見える空間にする。縦に抜けるだけでなく、地区全体に様々な結びつきを持たせる。

総括：

各グループ、対象地区の魅力・課題の共有を行うことができた。景観のような視覚的な町の現状から意見交換を行うことが多かったが、歴史的な環境形成の経緯やまちづくりのシステムのような部分にまで言及するようになるとより良いものになるのではないか。また、コンペでは歴史的な環境地区の中で、歴史的物件や文化財といったものに住む・使うということを意識することも重要であり、これらの諸条件をインテグレートした提案を期待したい。

図 1　グループ作業時のパネル

図 1　WS の様子

２．WS における街歩きでの撮影写真の Google アカウントによる公開について

別添資料を参照ください。